

オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第67号

2013年2月9日

<http://www.australianstudies.jp/>

ACNet 事務局への業務委託は2013年3月31日をもって終了します。4月1日以降につきましては速やかに会員にお知らせします。学会誌投稿・諸届・連絡先が不明な場合、事務局（上智大学）へお問い合わせください。併せて学会ホームページ（<http://australianstudies.jp/>）もご覧ください

1. オーストラリア学会2013年度総会・全国研究大会 概要

※プログラムは変更される可能性があります。詳細は会報次号にてお知らせいたします。

日時：6月8日（土）・9日（日）

会場：名古屋商科大学 日進キャンパス（〒470-0193 愛知県日進市米野木町三ヶ峯 4-4 TEL: 0561-73-2111）

※アクセス等に関しては、特設サイト（<http://www.nucba.ac.jp/australia/>）で随時ご案内いたします。

担当：鎌田真弓（名古屋商科大学）

□第1日目 6月8日（土）

午前：理事会開催予定

13:00～ 特別講演

シンポジウム1「政治、ビジネス、社会におけるオーストラリア女性」

司会：川口章（同志社大学）

報告者：Anne Daley（キャンベラ大学） Laura Dales（西オーストラリア大学） 岸智子（南山大学）

討論者：森島覚（追手門学院大学）

懇親会

□第2日目 6月9日（日）

午前：一般個別研究報告

午後：理事会・総会

シンポジウム2「オーストラリアの高等教育とアジア：『グローバル人材育成拠点』として」（仮題）

司会：石井由香（立命館アジア太平洋大学）

報告者：工藤和宏（獨協大学） 重松伸司（追手門学院大学） 杉村美紀（上智大学） 他

2. 全国研究大会 個別報告者追加募集

オーストラリア学会2013年度総会・全国研究大会の一般個別研究報告（6月9日（日）午前中）の報告者を引き続き募集しております。個別報告の発表を希望される会員は、氏名・所属・題目・200字程度の要旨を明記の上、2月末日までに学会事務局あてに書面（Eメール可）にてお申し込みください。

3. オーストラリア学会第8期第6回理事会報告

日時：2012年12月2日（日） 14:00～17:10

場所：同志社大学今出川キャンパス ハリス理化学館2階 会議室

【報告・審議事項】

- 1) 鈴木総務担当理事から6月以降の一般会務報告、加藤編集担当理事から国立情報学研究所の電子ジャーナル掲載の進捗状況、安田理事から学会誌26号の編集状況、また書面にて永野企画担当理事からAJF事業関係について、それぞれ報告があった。
- 2) 有満代表理事から9月に同志社大学で開催した国際シンポジウム（Literature, History, Film and Media Studies in the Globalizing Age グローバル化時代における文学、歴史、映画そしてメディア）の報告があり、併せて今後の学会活動についての指針（国際大会の開催、AJF助成への申請、科研など外部資金導入）が公表された。

- 3) 加賀爪関西例会担当理事から、第16回地域研究会(関西例会)を2月16日開催予定であることが報告された。
- 4) 川口会計担当理事から、2012年11月現在の会費納入状況などが報告された。

【議 題】

- 1) 第5回理事会議事録(回覧承認済み)の確認がなされた。
- 2) 資料に基づき、2013年6月までの学会活動の概要があり、研究会開催などについては担当理事からの説明がなされ、承認された。また「学会創立25周年記念事業検討委員会」により今後の企画検討を行うことが承認された。
- 3) 2013年全国大会開催校の鎌田理事からプログラム内容とシンポジウム企画について説明があり、審議の結果、承認された。
- 4) 2013年度全国大会実行委員会については開催校の鎌田理事、全国研究大会担当の塩原理事、田澤理事ならびに企画担当理事、総務担当理事にて構成されることが承認された。
- 5) 2014年度全国大会開催校については、総務担当理事から公募締切日までに応募がないことを受けて、有満代表理事から上智大学での開催が提案され、鈴木理事の承諾を受けて、承認された。
- 6) 有満代表理事と総務担当理事から、2013/14年AJF助成事業について説明があり、審議の結果承認された。
- 7) 総務担当理事から、2013年度からの業務委託先選定について候補先及び業務内容の比較説明が行われ、質疑応答の結果、最終判断を運営委員会にゆだねることとした。
- 8) 「理事会決定・申し合わせ事項」(第5回理事会決定)の「会員手続き等」中、4月1日以降に退会届が出された場合、前年度末の退会扱いができるように改められた。
- 9) 第9期理事については永野副代表理事をとりまとめ役に理事候補推薦作業を進めていくことが承認された。
- 10) その他入会者(2名)、退会者(1名)が承認された。

出席者＝有満保江(代表理事)、加賀爪優、加藤めぐみ、鎌田真弓、川口章、小林信一、塩原良和、橋本雄太郎、松繁寿和、安田純子(以上理事、50音順)、谷内達(以上監事)、委任状6名。

4. 第16回地域研究会(関西例会)のお知らせ(共催：追手門学院大学オーストラリア研究所)

*非会員の方も参加できます(部分的に通訳があります)

テーマ：オーストラリアのカーボン・マイニング税導入をめぐる

日時：2013年2月16日(土)14:00~17:00

場所：京都大学農学部 総合館東側4階 第一会議室 E217

連絡先：京都大学大学院農学研究科 加賀爪優研究室 〒606-8502 京都市左京区北白川追分町(TEL:075-753-6206, FAX:075-753-6191, Email:kagatume@kais.kyoto-u.ac.jp)

交通：①JR京都駅：正面の京都市バスA2のりばから17号系統、または地下鉄烏丸線「今出川」：市バス「烏丸今出川」から203号系統、②阪急河原町駅：市バス「四条河原町」から17号系統、③京阪出町柳駅：市バス「出町柳」から17号系統および203号系統。いずれも「京大農学部前」または「北白川」下車。

座長：鎌田真弓(名古屋商科大学)

発表：Justin Dabner(ジャスティン・ダブナー, ジェームスック大学/東京大学客員教授) 'You're gonna get wacked!'; the political economy of carbon and mining tax reforms - the Australian experience (カーボン・マイニング税改革の政治経済学—オーストラリアの経験から)

【要旨】1997年京都議定書以降、地球温暖化問題が議論される一方で、オーストラリアでは資源ブームによって引き起こされた環境破壊が深刻になっている。環境問題を軽減するために導入されたはずの炭素税および鉱物資源税の改革は、オーストラリアの政治に多大な影響を及ぼしている。

コメント：①Michele Rosano(カーティン大学、追手門学院大学共同研究協力者) ②：加賀爪優(京都大学)

5. シンポジウム「グローバル化時代における文学、歴史、映画そしてメディア」報告

有満保江

2012年9月29日(土曜)14:00-17:30、同志社大学今出川校地、光塩館会議室において、「グローバル化時代における文学、歴史、映画そしてメディア」と題する国際シンポジウムが開催された。(オーストラリア学会主催、同志社大学助成、科学研究費基盤研究C助成)オーストラリアの「多文化主義」を軸に、国際的、学際的な考察を試みるもので、文学、歴史、映画、メディアの現状を分析し、複数の国が共有できる価値を見出し、今後ますます多文化化、グローバル化する社会の展望について議論がなされた。基調講演はケイト・ダリアン-スミス(メルボルン大学)、パネリストは①シェン・シャオイン(沈曉茵)(台湾国立大学)「多文化社会が直面するグローバル化問題—オーストラリア人女性の物語を検証する」、②ワン・グエンリン(王光林)(上海對外貿易学院)「断片を翻訳する—『シャンハイ・ダンシング』に見られる複数のアイデンティティ」、③リー・ヨン(李鍊)(鮮

文大学校)「韓国メディアと多文化社会—グローバル化の試み」、④鈴木雄雅(上智大学)「日本のメディアと多文化社会」、司会は有満保江(同志社大学)が務めた。シンポジウムでは活発な意見交換が行われた。(参加者31名、参加国数5か国、使用言語は英語)

6. 第15回地域研究会(関西例会)報告

南出真助

2012年10月27日(土)13:15~17:15、追手門学院大学で<オーストラリアの「家族」をめぐる法と人権>をテーマに行われた。今回は発表者のうち1名を追手門学院大学オーストラリア研究所の招待講演者としたため、同大学との共催になった。発表①はベイデン・オフォード氏(サザンクロス大学、来日中)による「Marriage Equality: a Contemporary Issue of Sexuality in Cosmopolitan Australia」(婚姻の平等性:コスモポリタン・オーストラリアにおけるセクシュアリティの今日的課題)で、様々な事例から同性婚をめぐる法律上の扱いに対する問題提議がなされた。発表②は南貴子氏(愛媛県立医療技術大学)による「オーストラリアにおける人工授精の法制度化と揺らぐ家族の在り方」で、精子提供者の匿名性が廃止されたビクトリア州の事例を中心に、子どもにとっての「親」の意味を問い直すものであった。発表③は小川富之氏(近畿大学法学部)による「オーストラリアの家族法と子どもの権利」で、1975年に改正されたオーストラリア家族法を取り上げて、離婚の成立と離婚後の養育問題を中心に具体的な問題点が述べられた。これまでにないテーマでの掘り下げに、参加者の関心も深まったようであった。座長:有満保江氏(同志社大学)・栗山直子氏(追手門学院大学)、参加者50名。

7. 第6回地域研究会(関東例会)報告

塩原良和

2012年12月22日(土)の15時~18時、東京の神谷町にある大阪経済法科大学アジア太平洋研究センターにて開催された。今回の関東例会は東京藝術大学毛利嘉孝科研費研究会(多文化メディア市民研究会)との共催で行われた。報告者の濱野健会員(京都大学大学院文学研究科グローバルCOE研究員)は日本のカルチュラル・スタディーズの分野でも活動しており、濱野氏を媒介にふだんは馴染みのない研究者たちが議論を交わす刺激的な場となった。濱野氏の報告「日本人のオーストラリア移住史への新たな視点:1980年代から90年代初頭の移住者とJICAとの関わりから」では、濱野氏のこれまでの現地調査の成果と、同氏が毛利科研費研究会の支援を受けて進めている、シドニー在住日本人永住者から提供を受けた過去30年間の現地日本人永住者コミュニティ組織に関する一次資料のアーカイブ化作業の中間報告が行われ、参加者約15名のあいだで活発な討論が行われた。

8. 豪日交流基金助成公開講座(第7回関東例会)「ポスト311期の日豪市民社会—対話と協働の可能性を探る」報告

村上雄一

第7回関東例会を兼ねた豪日交流基金助成公開講座「ポスト311期の日豪市民社会—対話と協働の可能性を探る」は、2013年1月9日に第1回を慶應義塾大学、翌10日に第2回・第3回を福島大学で開催された。メルボルン大学のTilman Ruff先生には第1回と第3回を担当していただき、専門である公衆衛生学の見地から、低線量被曝でもできるだけ避けることの大切さ、及び、人権の観点から脱原子力が必要であることを、データに基づきながらわかりやすく講義していただいた。メルボルン在住で社会的責任投資アナリストの松岡智広氏には、第1回のコメンテーター、並びに、第2回の講師を担当していただき、オーストラリアのウラン鉱山と日本の関係、そして、そのウランを巡ってアボリジナルも福島の人々もそれぞれが帰属意識を持つ土地から引き裂かれている現実について語っていただいた。また、福島会場では、福島市在住でフリージャーナリストの藍原寛子氏から、両講師の講演内容に福島の現状を重ねあわせた秀逸なコメントをいただいた。なお、ピースボートのMeri Joyce氏が専門的な内容を分かりやすく通訳してくれた。どの回も、一般参加者を含め、60名前後の参加があり、遠くは広島やオーストラリアからの参加者も得るなど、盛会であった。この公開講座を通じて、人類の生命と尊厳、持続可能な文明のあり方に関心を抱く日豪双方の市民のあいだに、新たな対話と交流の機会を得ることができた。

9. タイ=オーストラリア国交樹立60周年記念国際会議参加報告

永野隆行

バンコク(タイ)で2012年11月8・9日の2日間にわたって開催された国際会議「タイ=オーストラリア国交樹立60周年記念国際会議」に出席した。タマサート大学オーストラリア研究センター(ASC)と駐タイオーストラリア大使館が主催し、タイ=オーストラリア間の貿易、投資、人の移動、安全保障、知的交流などをテーマにタイ、オーストラリア、日本の研究者が発表と討論を行った。オーストラリア政府によるいわゆる「アジアの世紀白書」が発表された直後の開催となり、同会議では二国間関係に限らず、アジアとオーストラリアの関わりについて幅広く議論が展開された。同国際会議への出席は、ASC所長のS・スパチャラシ教授が12年8月末に来日した際に、オーストラリア学会(ASAJ)の参加を要請し、ASAJとしてそれに応えたものである。有満保江ASAJ代表理事の代理として永野隆行・副代表理事が出席し、タイならびにオーストラリア経済に関するセッションの司会を務め、またアジアにおけるオーストラリア研究ネットワークの拡大に関する円卓会議でASAJの活動に関す

るブリーフィングを行った。同円卓会議では、駐タイオーストラリア大使館のS・エバンス参事官（教育研究担当）、モナシュ大学オーストラリア研究センター所長のT・モーア博士、ASC所長のスパチャラン教授らと意見を交わした。なお追手門学院大学オーストラリア研究所から重松伸司教授が出席し、アジアにおける人の移動に関する報告を行っている。

10. 会費納入のお願い

通常、年会費の請求は年度の始まり4月に行いますが、年会費が納入されると、納入時期にかかわらず未払い年度がある場合そこへ充当されます。たとえば2012年5月に年会費を納入しても、2011年度未払いの場合、それは2011年度の会費となります。すなわち、2012年度は未納ということになります。また2010、2011年度未払いの場合、2010年度分の会費納入になります。

【2012年度分会費及び会費が未納の会員の皆様へ】2012年度会費分を含めて請求を本号に同封します。未納年度分（2010年度を含め最多3か年）を速やかに振込票にて納入願います。未着のかたはACNet「オーストラリア学会」担当あてお知らせ願います。なお、会費振込票に会員名の記載がない場合、振込会員を特定できないため、必ず会員名をお書きください。また原則領収書は発行していません。郵便振替票の受領書などをご利用願います。会費未納の会員の皆様に関しましては、当該年度の会費納入が確認され次第、学会誌『オーストラリア研究』（現在2012年3月発行、第25号）までをお送りしております。事務局では3か年分の在庫を保管しておりますので、順次発送しておりますが、お手元に届くまで若干時間がかかる場合もあります。会費納入にもかかわらず未着の学会誌がありましたら、恐縮ですが、学会事務局(ACNet)ご連絡ください。

11. 『オーストラリア研究』投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

『オーストラリア研究』に掲載する論文を募集しています。投稿はいつでも受け付けておりますが、次号26号に掲載する論文の投稿は8月末日が締め切りでしたので、次は27号での掲載になります。詳細は、学会ウェブサイト、もしくは25号掲載の「投稿要領」（2011年12月11日一部改訂）をご覧ください。また第12号以降、会員の研究文献目録を継続して掲載しております。発表された著書、論文、報告書、翻訳などのなかから、オーストラリア学会の趣旨に関係する目録未掲載の研究文献を選び、お知らせください。締め切りは2013年10月30日（期日厳守）。編集作業の都合上、電子メール（またはテキストファイルを含んだCDもしくはUSB）をご利用ください。記入例はバックナンバーを参照し、掲載書式に必ず準ずる形でお送りください。

投稿先は、学会ホームページをご参照下さい。※4月以降変更になりますのでご注意ください。

【会員からの事務局寄贈図書(2011-13年)】

菊池努・畑恵子（編著）『ラテンアメリカ・オセアニア』（ミネルヴァ書房、2012年）

＝福嶋輝彦、佐島直子会員

鎌田真弓（編）『日本とオーストラリアの太平洋戦争 記憶の国境線を問う』（お茶の水書房、2012年）

＝鎌田真弓、田村恵子、飯笹佐代子、永田由利子、加藤めぐみ、福嶋輝彦、笹本妙子会員

D. ブラック、曾根幸子（編著）、有吉宏之・曾根幸子（監訳）、追手門学院大学オーストラリア研究所（協力）

『西オーストラリアー日本交流史』（日本評論社、2012年）＝有吉宏之・曾根幸子会員

【新刊書のご案内】

上村英明・木村真希子・塩原良和編著／市民外交センター監修『市民の外交——先住民族と歩んだ30年』法政大学出版局、2013年1月（A5判224ページ、定価2300円＋税、ISBN978-4-588-67516-4 C0036）※塩原良和「先住民族の自己決定とグローバリズム：オーストラリアからの示唆」所収

【諸届出／連絡先】※4月以降は別の業務委託先に変更になります。学会ホームページをご覧ください。

〒107-8404 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル 特定非営利活動法人CANPANセンター

ACNet事務局「オーストラリア学会」担当

TEL：03-6229-5104／FAX：03-6229-5116 E-mail ac056-asaj@canpan.org

【オーストラリア学会事務局】

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学文学部新聞学科内鈴木雄雅研究室気付

電話03-3238-3983 FAX 03-3238-3094 Email: HAF00025@nifty.ne.jp

会費振込先：00190-3-157063 加入口座名：オーストラリア学会

※会員のご著書、新刊、訳書などの情報をACNet事務局担当までお送りください。ただし紙面の制約上、会報に掲載できない場合があります。〔編集担当：塩原良和（慶應義塾大学）・編集協力：濱野健（京都大学）〕